

月館町という地名は、「月見館」という館やかたの名前から生まれました。江戸時代までは、各地にお城があり殿様とのさまがいて、藩はん（今の県にあたる）を治おさめていたのです。今から200年ほど前には、下手渡じんに陣屋やしろ（城をもたない大名の屋敷）を開いた殿様たいみょうがおりました。

## 手渡の殿様

ずーっとむかし、はるばる九州きゅうしゅうは三池みいけから下手渡たてわたに来た殿様たちばなぶぜんのかみたねがいました。この殿様・立花豊前守種善たちばなぶぜんのかみたねは、幕府の命令で下手渡藩たてわたはん十カ村一万石を治めることになったのです。殿様の陣屋じんやは、二階建ての御殿ごでんをはじめ、神社しんじ、御用部屋ごようぶつ、武器庫ぶきこ、穀倉こくぐら、学問所がくもんじょ、侍部屋さむらいぶつなどが建ち並ぶ、りっぱなものでした。ここでの藩政はんせいは、文化3年（1806）から明治元年（1868）まで三代、62年間続きます。

二代目の殿様・立花主膳正たちばなしぜんしょう種温たねぬるは、天保の大飢饉てんぽうのだいきんの時も死者りやうみんを出ですことなく、領民りやうみんに慕したわれました。

三代目の殿様・立花出雲守たちばないずものかみ種恭たねゆきの時、明治維新めいしんとなりました。その後幕府と政府せいふの争まがい（戊辰戦争ぼしんせんそう）で、陣屋じんやは焼かれ、殿様だんさまは三池へ帰かえっていききました。

やがて、藩政はんせいは県政けんせいに変わり、侍さむらいも殿様だんさまも姿を消きしました。陣屋跡地じんやあとち（今は桑畑くわばたけ）に、旧藩士きゅうはんしが殿様だんさまをしのんで建てた懐古かいこ之碑のひがあり、「手渡の殿様たてわたのだんさまとご陣屋ごじんやの物語ものがたり」を静しずかに伝つたえています。

